

平成 22 年 4 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007 ～ 2009  
 課題番号：19520382  
 研究課題名（和文）北東北における近世庶民生活に関する研究—往来物資料からの解明—  
 研究課題名（英文） A research on the life-style in the early-modern period of the people in the northern Tohoku region - Clarification based on 'OURAIMONO' documents -  
 研究代表者  
 郡 千寿子 (KOHRI CHIZUKO)  
 弘前大学・教育学部・准教授  
 研究者番号：50312476

研究成果の概要（和文）：従来、発掘整理や資料価値など、研究が十分にすすんでいなかった、往来物資料について、調査を実施し、その分類整理を行った。特に北東北地域所蔵の往来物資料について、書誌的文献学的な紹介とともに、その分布や偏在状況を提示した。近世期における秋田、岩手、青森の諸地域の教育環境や文化的背景を考察検討するうえで、それらの資料群が重要な示唆を与えてくれるものであることが判明した。今後、近世庶民生活や教育の実態について、発展的応用的な研究基盤となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：The investigation concerning "OURAIMONO" documents to which the research on the classification of the discoveries and on the material value was not advanced enough up to now was carried out, and these pigeonholes were done. Especially, the distribution and the uneven situation of "OURAIMONO" documents of the northern Tohoku region possession were presented with a bibliographical and/or philological introduction. It became clear that those documents gave an important suggestion for a study of the educational environment and cultural background in various regions of Akita, Iwate and Aomori during the early-modern period. These will be expected to become a basis for progressive and/or applied researches on the true state of the people's life-style and of the education in the early-modern period in the future.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：言語生活

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 学術フロンティアへの参加

2004年から5カ年計画での学術フロンティア推進事業(COE研究)に参加した。研究拠点は武庫川女子大学で、アメリカ、フランス、イギリス、韓国、中国他、海外からの研究者17名を含め、学外研究者76名が参加した研究プロジェクトである。研究テーマは、「関西圏の人間文化についての総合的研究—文化形成のモチベーション—」で、その中の「言語・コミュニケーションの混交と再生」の研究グループにおいて「関西における往来物・節用集の出版と生活コミュニケーション形成に関する研究」を共同で担当した。

### (2) 『往来物』研究の背景

『往来物』は、近世から近代において知的文化的ネットワークを形成し、生活規範確立に寄与してきた、日本社会の近代化に関わる重要な資料である。2001年に『往来物解題辞典』(石川松太郎監修)が出版され、往来物研究の基盤ができ、便利になった。しかし、未だ十分には、発掘整理や書誌的研究、資料的価値など、研究がすすんでいない現状にある。

従来の往来物研究は、教育史の資料としての側面が大きかった。しかし、地域社会における言語生活の反映や文化形成に果たした役割などを読み取ることが可能であり、そうした新たな視点からの活用が期待できると考えられるのである。

## 2. 研究の目的

### (1) 往来物の書誌的文献学的研究

本研究は、東北地域所蔵の『往来物』についての書誌的文献学的調査を基礎研究として、整理分類することを出発点とする。

### (2) 往来物の地域社会における文化的役割についての実態調査研究

分類整理した『往来物』資料から、地域特性のみられる資料を抽出し、その文献の存在意義や背景について考察分析する。東北文化圏における、言語生活の実態や教育環境など、往来物を通じた考察検討から、地域間格差や同質性などへと研究を進展させる。

### (3) 東北における関西文化の影響についての分析と考察検討

所蔵資料を出版地別に分類し、関西出版の

往来物の所蔵状況を通して、東北における関西文化の流入や受容の様相を探求する。

## 3. 研究の方法

### (1) 北東北地域所蔵の『往来物』資料の原本実地文献調査

- ①弘前市立図書館
- ②函館市立図書館
- ③岩手県立図書館
- ④八戸市立図書館
- ⑤秋田県立図書館

### (2) 書誌的調査を経て、目的別に分類整理

- ①教訓科往来
- ②社会科往来
- ③語彙科往来
- ④消息科往来
- ⑤地理科往来
- ⑥歴史科往来
- ⑦産業科往来
- ⑧理数科往来
- ⑨女子用往来

### (3) 出版地別(京都・大坂・江戸・仙台・その他)に分類整理

### (4) 内容面からの考察検討

所蔵文献資料を内容面から考察検討し、それぞれの地域特性や同質性、異質性などを分析する。また、研究すべき資料を抽出し、『往来物』資料から読み解ける、近世期の庶民生活の一面を提示する。

## 4. 研究成果

### (1) 弘前市立図書館所蔵資料について

弘前市立図書館所蔵の調査該当資料は、197本にのぼり、近世期に出版された往来物資料の所蔵数がかなり多いことが判明した。そのうち、江戸での出版は156本で、全体の約79.2%を占めている。京都の出版が20本、全体の約10.2%、大坂の出版が16本で全体の約8.1%、仙台の出版が5本で約2.5%であった。

江戸の出版物が多いとはいえ、京都や大坂といった関西で作成された往来物資料が東北最北端の弘前の地に持ち込まれ、活用されていたらしいことは興味深い結果である。

目的別の分類では、①教訓科往来が30本、②社会科往来が24本、③語彙科往来が19本、

④消息科往来が41本、⑤地理科往来が14本、⑥歴史科往来が33本、⑦産業科往来が5本、⑧理数科往来が0本、⑨女子用往来が31本という結果であった。

#### (2) 函館市立図書館所蔵資料について

函館市立図書館所蔵の調査該当資料は、『函館往来』のみであった。『函館往来』は、⑤地理科往来の代表的な文献資料であり、安政3年(1956)の松浦武四郎によるものである。

この他、旅行案内記的な『松前蝦夷道中細見記』や『諸国名所』『旅行用心集』、また、江戸より函館に至る道中双六の『箱館道中名所寿五六』など近世期の貴重な文献資料の所蔵が確認された。しかし、こうした文献は往来物の分類に含めないと判断し、本研究対象からは除外した。

#### (3) 岩手県立図書館所蔵資料について

岩手県立図書館所蔵の往来物資料は、総数70本で近世期の版本は6本であった。

弘前市立図書館の所蔵資料数と比較すると少ないが、調査検討によって、それらが貴重な資料であることが判明した。

『往来物解題辞典』に記載のない、英語関係の語彙科往来資料である『英学七ツいろは』や英語の文法書の体裁をとった『挿訳英利文典』といった文献を確認できた。岩手には盛岡洋学校があり、そうした教育環境と関係するものと思われる。

このほか異種として『商売往来絵抄』『近道子宝』『奥道中歌』が確認された。

目的別分類としては、③語彙科往来3本、⑤地理科往来1本、⑦産業科往来1本であり、また、出版地別では、江戸2、大坂1、盛岡1、仙台1という結果であった。盛岡や仙台での版本が確認できたことや、弘前と比して関西圏からの流入が少ないことは、出版文化を考える上に興味深い点である。

#### (4) 八戸市立図書館所蔵資料について

八戸市立図書館所蔵の遠山家旧蔵本について、調査分類を終えた。往来物資料の総数は24本で、そのうち近世期の版本は12本であった。目的別分類としては、①教訓科往来が1本、③語彙科往来が1本、④消息科往来が4本、⑥歴史科往来が4本、⑦産業科往来が1本、⑨女子用往来が1本であった。出版地が確認できる資料は少なく、江戸が4本、大坂が1本であった。これらの他、写本の往来物資料として、『近道子宝』や『女今川』『女大学』『千字文』等が確認できた。

『増補大金消息往来』という資料の中に「遠山安次郎」の書き入れが見られるなど、当時の遠山家の養育環境とともに学びの実態を今に知らせてくれるものでもあり、貴重な

資料群であるといえよう。

八戸市立図書館は、南部家文庫、百仙洞文庫を有し、南部家家臣の相互扶助組織であった書物仲間を継承、明治7年八戸書籍縦覧所が発足して以来の継続した歴史をもつ図書館で、安藤昌益資料の整備など充実した内容と活動で知られている。

八戸市立図書館所蔵資料については、『往来物解題辞典』でも全く触れられていない。つまり、未確認未詳の文献がほとんどであるといえ、本調査結果は、重要な研究基盤となりうるであろう。

#### (5) 秋田県立図書館所蔵資料について

秋田県立図書館所蔵の往来物資料は、近世期版本が、総数50本であった。他にも近代明治期以降に出版された往来物資料や書写本を含むとかなりの所蔵数が確認された。詳細な書誌調査や内容分析は、今後の課題であるが、秋田県立図書館所蔵の往来物資料の中には、『国書総目録』にも記載のない文献資料も含まれている。つまり、未確認未詳の文献資料の所蔵が本研究調査で確認されたことになる。

また一方で、弘前市立図書館の所蔵数には及ばないものの、岩手県立図書館や八戸市立図書館の遠山家旧蔵本に比して、珍しい資料が多かったことは注目すべきである。特に理数科往来の存在が際だっていることを明らかにしたことは大きな研究成果であった。

目的別分類によれば、①教訓科往来が6本、③語彙科往来が5本、④消息科往来が4本、⑥歴史科往来が2本、⑦産業科往来が4本、⑧理数科往来が16本、⑨女子用往来が13本であった。

目的別に分類整理した結果を通して、秋田県立図書館所蔵資料には、偏在があることが明らかとなった。②社会科往来と⑤地理科往来は0本であり、そうした空白の領域がある一方で、他地域図書館に全く所蔵が確認できなかった⑧理数科往来が16本と異例に多いことが、特徴として明確になったといえる。

#### (6) 地域間—弘前と秋田—の資料比較

本研究における調査結果について、参考までに弘前市立図書館所蔵資料の状況と秋田県立図書館所蔵資料の状況について比較しながら少しまとめておきたい。

目的別分類資料の総資料数における割合(%)を提示すると次のようになる。

弘前市立図書館所蔵資料においては、①教訓科往来15%、②社会科往来12%、③語彙科往来10%、④消息科往来21%、⑤地理科往来7%、⑥歴史科往来17%、⑦産業科往来2%、⑧理数科往来0%、⑨女子用往来16%である。

秋田県立図書館所蔵資料においては、①教

訓科往来 12%、②社会科往来 0%、③語彙科往来 10%、④消息科往来 8%、⑤地理科往来 0%、⑥歴史科往来 4%、⑦産業科往来 8%、⑧理数科往来 32%、⑨女子用往来 26%である。

①教訓科往来とは、道徳を説いたもの、しつけに関するもの、金言や格言を紹介したものなど種類も多い。秋田県立図書館には該当の資料が6本所蔵されていたが、そのうち3本が『六論衍義』関係のものであった。中でも「文政十三年版」は秋田藩板であり、貴重な資料といえる。

一般に教訓科往来は多く知られているが、全体に占める割合については、弘前が15%、秋田が12%と大差なかった。

②社会科往来では、弘前には24本もの所蔵が確認されたが、秋田には所蔵が見られなかった。地域による偏在が見られる点として注意しておくべきであろう。

③語彙科往来としては、秋田県立図書館所蔵資料の中に興味深いものが確認できた。「寛政十年版」の『作文率』と「元禄十四年版」の『文林良材』という資料である。それぞれ作文に際しての作法や注意点を詳細に記した文献で、一種の実用書といえる。近世期に行われた作文指導の方法を解明する上に重要なことはもちろんであるが、現在の国語科で行われている作文教育を再考する上にも参考となり、示唆を与えてくれる資料である。

『寺子讀書千字文』は「寛永二年版」で、次々と流通していった「千字文」関係の往来物の最初の版であり、文化伝搬の事情を知らせてくれるものである。

弘前も秋田も③語彙科往来の占める割合が、総資料の10%と同じであったことも興味深い結果であるといえよう。

④消息科往来は、往来物として著名な『庭訓往来』を含み、ある意味で代名詞的な位置づけのものである。その消息科往来の所蔵は、弘前は41本で総資料数に占める割合が21%とかなり大きい。一方の秋田は、4本で8%と少なかった。

⑤地理科往来は、弘前には、京都で「享保十一年」に出版された『山寺状』という参詣型の往来物資料や江戸を紹介した『自遣往来』などがあり、全体の7%を占める資料が所蔵されていた。しかし、秋田では、近世期版本の資料が確認できず、所蔵されていなかった点が特徴的といえるであろう。

⑥歴史科往来は、たとえば弘前に「弘化四年版」の京都で出版された『古状揃大成』が所蔵され、これは『国書総目録』にも未載の貴重な文献であった。弘前では⑥歴史科往来が②消息科往来に次いで多く所蔵が見られた。一方の秋田では、刊年不明の『南朝忠臣往来』と『弁慶状』の2本だけであった。

⑦産業科往来は、全体に占める割合が、弘前2%、秋田8%であり、それほど多くはない。たとえば秋田には、「文久二年版」の『錦耕商売往来』や『増補新鑑百姓豊鑑』といった農民に対する心得を説いた往来物資料も確認できた。このほか写本の『町人囊』『百姓囊』の所蔵も見られ、秋田では、近世期特有の階級社会それぞれの学びが往来物資料を通して実践されていたことが知られる。

⑧理数科往来は、弘前には所蔵がなかったが、秋田では、16本で全体の32%も占めている。理数科往来は、理学型（天文・地学・生物・物理）と算数型に分けられる。秋田の所蔵は、理学型が11本、算数型が5本であった。

たとえば算数型に分類できる『改算記綱目』は、「貞享四年版」の上中下二冊の計六冊本であるが、秋田所蔵については、『国書総目録』に未載である。また「寛文十年版」の『古今算法記』や「弘化二年版」の『算法整数起源抄』なども、『国書総目録』に未載で従来知られていない資料であり、貴重な報告となるであろう。

また、理学型の往来物資料は、一般に少ないと言われてきた。詳細な考察検討は今後の課題であるが、秋田にこうした理学型往来資料が確認できたことは本研究調査の最大の収穫であったといえる。

⑨女子用往来は、弘前に31本もの所蔵が確認でき、全体の16%であった。秋田では、13本が確認でき、全体の26%を占めている。秋田においては、⑧理数科往来に次いで⑨女子用往来の占める割合が大きかった。

女子用往来資料は、日常生活総合教科書といった体裁をとるものが多い。それぞれの生活場面や年代に応じて必要な一般常識が記載された文献が、各家庭で常備され利用されてきたものと思われる。

たとえば興味深い資料として、秋田に所蔵されていた「享保十一年版」の『夫人教訓寿草』が挙げられる。出産育児書というべきものである。「元禄二年版」の『夫人養草』は、女子一生の教訓と教養を多くの和漢書から引用しつつ解説したものであった。

女子用往来資料を読み解くことは、近世期の女性に対する教育を知ることには有効なだけではない。当時の風俗や思想をも提示してくれる文化資料という一面があると思われる。

## (7) 総括

北東北地域に所蔵されている、往来物資料について調査し、分類整理した検討結果を今一度簡単にまとめておきたい。

函館市立図書館には、近世期の往来物資料が少ないことが判明した。岩手県立図書館には、近世期版本が6本と少なかったが、『英

学七ツいろは』『挿訳英利文典』といった、他に見られない貴重な英語教育関係の資料の存在を知り得た。

他方、弘前市立図書館には、他地域に比して所蔵往来物資料数が圧倒的に多く、197本であった。目的別分類の内訳を示すと、最も大きいのは、著名な『庭訓往来』を含む、消息科往来であった。これに次いで歴史科往来、女子用往来、教訓科往来となる。しかし、これら三種は、それぞれ全体に占める割合が、15～17%と大差ないことが知られた。そして、多数の往来物資料を有する、弘前市立図書館において、所蔵が見られない領域のものが、理数科往来であった。

一方で、秋田県立図書館の所蔵について見ると、総数50本のうち、理数科往来と女子用往来でその半分以上を占めていることが知られ、ひとつの特徴を示していることが判明した。女子用往来は、近世期にかなりの種類が出版されていることが知られているが、理数科往来については、その時代的背景や当時の思想からの影響で、近世期版本は少ないと思われてきた。

秋田県立図書館の理数科往来資料は、『国書総目録』に掲載されていない、未確認未詳のものである。それだけに本研究調査における開拓と紹介は、意義ある大きな成果であった。

東北地方とひとくくりで語られることが多いが、決して一様ではない。北東北と限定して考えてみても、青森・秋田・岩手では、共通性もあるだろうが、一方で、自然環境や教育事情、生活実態に隔絶があったと思われる。

近世期の庶民生活や文化的な基盤は、往来物資料を介して成り立っていた面がある。こういった文献資料が、こういった地域で活用されていたかを知ることは、研究の第一歩であり、本研究調査によって、その様相の一端が提示できた。

往来物の研究は、今後、それぞれの地域特性や同質性の解明への手がかりとして、重要な役割を果たすことが予想される。そして本研究成果も、今後の応用発展的な研究への基盤となることが期待できるであろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 郡千寿子、秋田県立図書館所蔵の往来物資料について、弘前大学教育学部紀要、査読無、第103号、2010、1-6
- ② 郡千寿子、八戸市立図書館蔵 遠山家旧蔵

の『往来物』について、弘前大学教育学部紀要、査読無、第102号、2009、1-8

- ③ 郡千寿子、『往来物』にみる「七夕」、関西文化研究、査読無、第13号、2008、54-67
- ④ 郡千寿子、岩手県立図書館所蔵の『往来物』について、弘前大学教育学部紀要、査読無、第100号、2008、1-8
- ⑤ 郡千寿子、往来物の「女ことば」について、関西文化研究叢書、査読無、第10巻、2008、161-176
- ⑥ 郡千寿子、東北大学附属図書館狩野文庫蔵『繪本天の川』について、往来物の研究、査読無、第4輯、2008、1-23
- ⑦ 郡千寿子、弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—、往来物の研究、査読無、第3輯、2007、1-28

[学会発表] (計2件)

- ① 郡千寿子、往来物にみる「女ことば」、関西文化研究センター・セミナー、2008年2月2日、武庫川女子大学関西文化研究センター
- ② 郡千寿子、萩原義雄、往来物にみる「七夕」の三都物語—京都・大坂・江戸—、関西文化研究センター・フォーラム、2007年12月22日、武庫川女子大学関西文化研究センター

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：  
○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：  
〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

郡 千寿子 (KOHRI CHIZUKO)  
弘前大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50312476